

駒の里過疎対策プロジェクト支援金事業 自己評価報告書

		評 価 日	令和6年2月6日
団 体 名	望月小唄保存会		
事 業 名	望月小唄95周年記念事業		
事業経費③	808,000 円	支援金額⑨	404,000

事業の目的・内容	地域の課題
	佐久市望月地区は過疎指定地域で、人口減少と高齢化が進行し、農林業の維持や集落の維持はきわめて大きな課題となっています。この過疎という状況の中で、住民が生きがいを持って暮らしていくためには、地域文化の継承や普及がとても大切になっています。望月の伝統である望月小唄の普及で、地域社会の維持に貢献したいと考えています。
事業の活動実績	事業内容
	「望月小唄」は昭和3（1928）年、地域の努力で誕生しました。今回、誕生から95周年を迎え、95周年記念事業を実施しました。年度当初から準備を進め、望月地域内の文化団体や近隣の民謡クラブに呼び掛け、実行委員会を作り、10月29日「95周年記念望月小唄まつり」を揉まの里ふれあいセンター大ホールで開催しました。

5月に第1回を開催した実行委員会には、団体が参加し、主管は望月小唄保存会が担当しました。運営については何回も打ち合わせをし、プログラムや当日の運営について決めていきました。プロの演奏家と望月小唄保存会のコラボによる舞踊と演奏も実現しました。来場者も300人を超え、会場はたいへん盛り上がりました。当日の運営には、参加団体だけでなく、地域のNPO法人（2団体）や公民館にも協力をいただきました。参加・協力団体は別紙の通りです。



事業の様子または成果がわかる写真②



別記様式第5号（6の2関係）〔2枚目〕

事業の成果・効果	1、望月地域や近隣の人たちが「望月小唄」を通して地域文化の大切さを改めて認識する機会となりました。2、近隣の民謡グループや地域内の文化団体が準備から参加し、つながりを深めることができました。3、現代は農村でも地域のつながりが疎遠になりがちですが、文化活動を通して連携を深めることも重要で、その一助になりました。4、「望月小唄」のすばらしさを後世に伝えていく活動となり、参加者は100周年が楽しみだと言って、帰っていただきました。
----------	---

自己評価	事業は申請どおり実施できた	○1 できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 自己評価を記入 申請通りに実施することができ、関係者に喜ばれました。
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	○1 できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 自己評価を記入 期待した効果を上げることができました。会員の中でも、若い世代が準備の中心になり、将来に明るい展望が開けました。
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	1 ほとんど同じ ○2 多少の変更があった 3 大幅に変更している 主な理由（2、3と答えた場合のみ） 大会を開くための会員研修を行ったこと、出演団体と協議するための実行委員会通知で郵送料が生じた点などが加わった。また、会場照明や団体指導料が不要になった。
	その他、評価すべき点等	前回の支援金で参加してきた会員が中心になって活躍したこと、支援団体の協力が大きな力になったこと、この点は予想を超える成果でした。

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	役員会は今後若い世代に加わってもらい、活動の内容も進化させていきたいです。地域の宝である「望月小唄」がより多くの人に愛され、地域文化の向上に寄与していきたいと考えています。
---------	---